


ミカワタヌキモ		<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 II 類)			タヌキモ科
選定理由	生育地が極度に限定されているうえ、個体数が減少している。	<p>写真(加藤範夫)</p> 	
形態の特徴	茎は直径が1mm以下の糸状で、よく分岐してマット状に絡み合う。根はない。葉は疎らにつき、細い糸状、多くは基部で2裂し、裂片の先で更に分岐することがあり、長さ5-15mm。花茎は細く、長さ5-15cm、先端部に1-3個の花をつける。花は幅が3-4mmほどで、黄色。		
生態的特徴	湿地や溜池に生育し、溜池では浮遊する。花期は8-10月。		
分布状況	台湾、インド、アフリカ、オーストラリアに分布し、日本では東海地方から西の本州と九州にある。岐阜県では県南の南部に見られる。		
減少要因	湿地や溜池の埋め立てと水質の悪化。		
保全対策	生育する湿地と溜池の保全、及び水質の改善。		
特記事項			
参考文献			
			

文責:高橋弘